



日本医療機能評価機構
認定第JC1452号
http://machida-city-hospital-tokyo.jp/

まちだ市民病院

クォーターリー (季刊)

Dr's message

金崎 章 副院長

(地域連携担当)にきく

市民病院は、地域のみなさんが病気やケガをした時、必要な医療を受けられるよう、地域の医療機関と協力しながら町田の医療を支えています。かかりつけ医や紹介状など、みなさんからよくある質問に副院長がお答えします。

Q 風邪をひいてしまったのですが、市民病院で診てもらえますか？
A 風邪や軽いケガなど、すぐに入院する必要がない患者さんには、かかりつけ医への受診をお勧めしています。市民病院と診療所(クリニック)の役割分担については、国も医療機能の分化を積極的に進めており、診療所は比較的軽症な患者さんを中心に診療を行い、市民病院は二次医療機関として入院や手術、MRIなどの検査を必要とする患者さんを中心に診療しています。

Q なぜ役割分担が必要なの？
A 市民病院などの二次医療機関に外来患者さんが集中してしまうと、外来の対応に想定以上の時間がかかり、緊急性の高い救急の患者さんや、手術を待っている患者さんの診療に支障が出てしまうことがあります。「もし、ご自分の身近な人が救急車を呼ぶ事態や手術をすることになった時、対応に時間がかかったら：受け入れてもらえなかつたら：」と考えてみてください。市民病院に求められる役割や役割分担の大切さが見えてくると思います。症状をご自身で見極

めることはなかなか難しいですが、本当に緊急性の高い患者さんを助けるためにも、「風邪かな」とか「ちょっと腰や足が痛いな」という時は、まずはお近くのかかりつけ医を受診してください。緊急性が高い、あるいは症状が重いと判断された時は、市民病院等を紹介してもらえます。

Q かかりつけ医を持つことのメリットは？
A 日常の健康状態をよく知っているのかかりつけ医をもつことで、健康状態の変化にいち早く気づいてもらうことができ、健康の維持につながります。また、かかりつけ医は自宅の近くにある、待ち時間が比較的短い、開院時間帯が長い、土曜日開院の所が多いなど、「通いやすい」という点も、患者さんにとっては大きなメリットだと思います。入院や手術が必要になった場合は、市民病院等を紹介してもらってもできますし、症状が安定したらまたかかりつけ医による継続した医療を受けることができます。市民病院を受診されている患者さんで、かかりつけ医をお持ちでない方には、お近くの診療所やクリニックをご紹介することもできますので、お気軽にご相談ください。

Q 市民病院でよく「紹介状をお持ちください」と言われるのはなぜ？
A 紹介状(診療情報提供書)には、これまでの病状の経過や検査結果等が書かれています。紹介状をお

持ちいただくことにより、患者さんの状態がわかり、同じ検査を重複して行うことなく、スムーズに診療を行うことができます。まずはかかりつけ医を受診し、必要に応じて市民病院に紹介していただくという流れを作るためにも、紹介状の持参をお願いしています。なお、受診の際に紹介状をお持ちでない場合は、初診に関する選定療養費(2,700円・税込)をいただいています。

Q 市民病院の医師から、診療所等を紹介されるのはなぜ？
A 先ほどもお話ししたように、市民病院は入院や手術を必要とする患者さんを対象とする「二次医療機関」です。地域の診療所等(かかりつけ医)から、入院や専門的な検査、手術が必要な患者さんをご紹介いただき、診療を行っています。しかし、入院や手術、専門的な治療が終了し、症状が安定された患者さんについては、ご紹介いただいたかかりつけ医や、お近くの診療所等に逆紹介(市民病院から紹介)しています。これは、紹介状をお持ちいただく理由と同様、限られた医療資源を有効に活用し、患者さんが必要な医療を必要な時に受けられるようにするためです。市民病院からかかりつけ医の元に戻られた後、もしも症状が悪化した場合は、市民病院が受け入れて継続的な医療を行う、こういったかかりつけ医と市民病院の連携体制の強化を今後より一層図ってまいります。



Dr. Akira Kanazaki

町田市民病院
副院長 (地域連携担当)
金崎 章 (かねざき あきら)

Profile
藤田保健衛生大学卒業
1988年から町田市民病院に勤務
専門は消化器で、内科部長を兼任

識を伝えていってほしいと思っています。せっかく地域にある資源は活用しないともったいないですからね。

川村 我々医師会員向けにも講演などをやっていただけるといいかなと思います。我々も在宅医療をやっていると専門外のことでも困ることもあるため、色々な科の話を聞きたいと思っています。たとえば泌尿器科の先生が勉強会をやるにしても、医師会全体に情報を流していただければ泌尿器科の開業医以外にも興味のある人は行きやすいと思います。また、こちらが企画する勉強会なども、今まで以上に市民病院の先生方にご協力いただけたらありがたいですね。

金崎 そういう要望をいただければぜひ協力したいと思っています。連携を深めていくことでは、先日初めて市民病院と医師会の交流会を開催しました。

川村 あれはよかったですね。この前はお互い上層部だけででしたが、今後は若い人たちも含めてあのような機会を少しずつでも増やしていければいいですね。顔が見えるということが大事ですから。電話した時に「あの先生だな」と分かるのと分からないのでは違うものです。

近藤 言いにくいことも含めて言い合える関係ができると一番いいですね。

川村 そうですね。そのためには頻繁に顔合わせることが大切です。

近藤 2017年度の当院の事業計画の中で、医師と地域連携の担当者が地域の



医療機関を年間50件訪問するという目標を掲げています。実際に患者さんを紹介してくださる病院に直接お邪魔して要望等を伺いたいと考えています。

川村 それはすばらしいことですね。医療設備や環境等、お互いの病院を実際に見ることも大切なことだと思います。
金崎 最後に市民のみなさんへのメッセージをお願いします。

近藤 市民のみなさんに対して病院がこう考えているというメッセージを十分に発信できていないのが現状であり、私自身それが課題だと感じています。普段はかかりつけの先生に診ていただいて、何かあったら市民病院にという紹介・逆紹介についても、まだまだ市民の方々の理解を得るには至っていないと反省しています。地域医療支援病院の承認を目指すにあたり、広報活動などを通じて市民のみなさんの理解を得ながら、紹介・逆紹介を推進していきたいと思っています。

川村 町田の医療というのは市民病院を中心として、他の病院があつて、開業医があつてという地域全体を一つの医療圏とする仕組みになっているため、それぞれ担うべき役割があります。市民病院は急性期（入院医療）や検査、周りの病院のサポートなどが役割で、そういった市民病院にしかできないことをやらしてもらいたいわけですから。地域包括ケアシステムにおいても我々医師会はかかりつけ医としての役割を果たしていかなければならないため、在宅療養や在宅医療の方にできるだけ力を入れていきたいと考えています。その辺の役割分担を皆が意識しなければいけません。地域包括ケアシステムでは、医療、介護、福祉関係の人たちの連携はもちろん、住民の方々の協力も必要で、そこが一番大切かもしれません。近藤院長が言われたように、市民のみなさんの理解が得られないと、医療機関の役割分担もうまく機能しません。医師同士の連携も大切ですが、市民のみなさんにその辺

のことを説明していかないといけないと思います。
近藤 川村会長がおっしゃったように、市民病院や個人の医療機関だけで考えず、町田市の医療を地域全体としてどう維持していくかを、市民の方々と一緒に考えていくことが必要だと思います。町田でより良い医療が提供できるよう、これからもお互いに協力していきましょう。



(左から金崎副院長、近藤院長、川村会長)

◆町田市民病院が目指す「地域医療支援病院」とは？

医療機関の機能分化と連携を推進するために設けられたもので、紹介患者に対する医療の提供（かかりつけ医等への患者の逆紹介も含む）や医療機器の共同利用、救急医療の提供、地域の医療従事者に対する研修など、地域のかかりつけ医を後方支援する病院。町田市民病院では、2020年度にこの「地域医療支援病院」の承認を受けることを目標とし、より一層地域連携に力を入れていきます。

町田市民病院

からの

お知らせ

町田市病院事業運営評価委員会を開催しました

2016年度第二回町田市病院事業運営評価委員会を2017年1月25日(水)に開催し、中期経営計画の進捗状況や2016



委員の皆さん

川村益彦 (町田市医師会会長)、木藤一郎 (旭町2丁目町内会)、渋谷明隆 (学校法人北里研究所常任理事)、水町浩之 (経営コンサルタント・欠席)、山内芳 (税理士) 50音順・敬称略

年度の財政見直し、次期中期経営計画について説明しました。

委員からは「市民病院の役割として、二次医療(入院)をきちんとやっていくことが重要である」「市民病院と開業医等の医療の機能分担について、患者にも理解していただく必要がある」「医療機関の医師がお互いの顔を合わせる機会を増やすことで連携がしやすくなる」「災害拠点病院としての役割が重要なため、災害時の対応についてマニュアルの整備を含めしっかりと行いたい」「医療の質や収益向上につながるため、クリニカルパスの充実を図ってほしい」等のご意見・ご提案をいただきました。

第4回市民公開講座を開催しました

2017年2月4日開催

風邪の見方と対処の仕方

感染対策室

五十嵐 尚志

風邪は身近な病気ですが、万病の元と言われるように必ずしも対処は簡単ではありません。そこで本講演では風邪の予防と、罹患時の考え方についてお話しさせていただきますました。

風邪の予防は体調管理とマスクや手洗いなど感染予防が大切です。風邪ウイルスは咳や飛沫(しぶき)の付いた手から伝播します。マスクは鼻と口がすっきり隠れるよう着用することが大切です。また飛沫の付

た手はドアノブなどを介して風邪ウイルスを伝播するため、手洗いはとても大切です。

普通の風邪は鼻水、喉の痛み、咳、発熱の症状が軽く、1週間程度で改善することがほとんどです。風邪にしては症状が重すぎる、または症状が長引く場合には、他の病気かも知れないので注意が必要です。中でも咳は長引きやすい症状ですが、2〜3週間以上続く場合には結核などのおそれもあるため、念のため受診をお考えください。風邪の鑑別は医師にとっても簡単でないことがあるので、患者さんがご自分の症状をよく説明することが大切です。風邪の予防で健康を維持して頂く事が病院職員全員の願いです。

風邪の予防と対処

- マスク、手洗い
- 早期対応
 - 風邪らしい(鼻水・咽頭痛主体) ⇒ かぜ薬
 - 風邪っぽくない ⇒ かかりつけ医

鼻水や咽頭痛がない重症(悪化する) 治らない(長引く咳(2-3週間以上)等)

新任医師紹介

精神科

かた くら ひろ と
片 倉 勲 人



①東京慈恵会医科大学・2012年卒
②映画鑑賞
③当院の医療に尽力させていただく所存です。

①出身大学・卒年 ②趣味 ③自己PR

つくって元気!

楽笑レシピ



1人分92kcal・塩分0.9g・カルシウム104mg・食物繊維4.2g
町田市民病院栄養科：野村

旬のらで、疲れを解消!

にらのナムル

- 《材料(1人分)》
- ◎切干しだいこん 10g
 - ◎にんじん 15g
 - ◎にら(1/2束) 50g
 - A ◎砂糖 小さじ1/2
 - ◎しょうゆ 小さじ1
 - ◎酢 小さじ1/2
 - ◎すりごま 小さじ1
 - ◎ごま油 小さじ1
 - ◎おろしにんにく 少々

- 《作り方》
- ①ボールにAを合わせる。
 - ②切干しだいこんは、もみ洗いしてから熱湯に1分ほど浸して戻し、一旦水にとり、水気をしぼって5cmの長さに切る。
 - ③にんじんは太めの千切りにし、にらは4cmの長さに切る。
 - ④鍋に湯を沸かし、にんじん、にらの順に加えて茹で、湯をしっかりときる。
 - ⑤②、③をAで混ぜ合わせ、器に盛り付ける。

★ワンポイントアドバイス★
☆切干しだいこんはもみ洗いして埃や汚れを取り除いてから使います。特有の歯ごたえが損なわれるので、戻しすぎには気をつけてください。
☆にらも食感が損なわれるので、加熱時間は短めに!



ニラの花

